

最優秀賞

神奈川県教育長賞

知ること

開成町立開成小学校

五年 大野 朱々風

「どうしようかな、座ろうかな。」

お兄ちゃんのひくトルコ行進曲に合わせてイスとりゲームをしていたときのことです。曲がとまったとき、まだイスは空いていました。今、座ればチャンピオンはわたしです。でも、こうきさんはまだ、楽しそうに行進中です。わたしは少し考えて、イスに座ることをやめようと思いました。少しして曲が止まったことに気付いたこうきさんは、あわててイスに座りました。チャンピオンはこうきさんです。こうきさんはとびつきの笑顔で、うれしいときに出るキメポーズもきまり、体全体で喜びを表現してくれました。

ただ一つだけ、はつきりと言っておきたいことがあります。わたしはこうきさんに、「勝た

せてあげた。」わけではありません。こうきさんに、「勝ってもらった。」のです。なぜなら、こうきさんの喜ぶ顔を、わたしが見たいと思ったからです。こうきさんの笑顔は、そこにいるみんなも笑顔にしてくれるからです。

わたしは、土曜日や日曜日に高れい者し設や福しし設に行き、訪問えんそうのボランティア活動をしています。こうきさんの通うし設には、月に一回ある音楽クラブという時間に訪問しています。学校の友達のようにおしゃべりをするわけではないけれど、えんそうをしたり、一緒にゲームをしたり、体そうをしたり、「楽しい」ということが言葉以外で伝わってくるこの場所が、わたしは大好きです。言葉以外で伝えてくれるこうきさんたちを、わたしはとてもきれいな人だと思います。言葉はうそでも言えるけれど、こうきさんたちの伝え方にうそはないからです。

本当のことを言うと、初めてこうきさんの通うし設に訪問したとき、わたしはこわいと思いました。とつ然、大きな声を出したり、跳びはねたり、動き始めたり、今まで見たことのない人たちだったからです。でも何度も訪問して、こわいと思うことが一つもなくなったとき、わたしは知らなかったただけなんだと気付きました。

こうきさんは、わたしの大切な友達です。こうきさんが笑えば、みんなが笑います。こうきさんから始まる笑顔のパレードが、いつまでも続く日々を守る大人に、わたしはなりたいたいと思います。